

## 企業のカーボンオフセット導入目的

今日、企業は様々な社会的責任（CSR）を求められています。

最近では制度強化によりコンプライアンスも重要視されています。しかし同時に、経済性を伴わなければ存続していきません。

これらを同時に満たすには環境パフォーマンスを多様な成果に結びつけることが重要です。

その手段の一つの好例が、カーボンオフセットといえます。

### 温室効果ガスの排出量削減

- 費用対策効果
- 社会コストの低減
- 将来、急増する途上国排出量の抑制

#### コンプライアンス

- 算定・報告義務
- 自主行動計画
- 各自治体条例
- 国内排出量取引制度

#### CSR

- 環境経営
- CSR/環境レポート
- 企業ブランディング

#### マーケティング

- 事例化
- プロモーション
- ブランディング

## 個人がカーボンオフセットを行う意義

私たちは、生活する中で多くの二酸化炭素(CO2)を出しています。

日本人の平均は1人当たり年間約10トン。

中国人の約2倍、インド人の約8倍です。

自主的 (voluntary) であるカーボンオフセットは、自分の“責任”の表現であり、「仕組み」を活用した有効な手段です。

## 持続可能な低炭素社会へ

地球環境は確実に温暖化へと向かっています。

IPCCによると、2050年までに世界の平均気温上昇を2℃以内に抑えなければ自然破壊へのリスクは避けられません。

残された時間を考えると、議論よりも実行(Action)が必要です。

我々は、排出権メカニズムを使った地球温暖化防止へのソリューションを目指しています。

### もっと詳しく知るために

#### O-CDMホームページ

<http://www.o-cdm.net>

大阪CDMネットワーク (O-CDM) では、カーボンオフセットを通じた温暖化対策への貢献を目的として、「大阪カーボンオフセット・コンシェルジュ (通称: OCONOMI)」活動を行っています。温暖化対策に関する専門企業をはじめ、コンサルタント会社、カーボンオフセット・プロバイダ、認証機関等が、O-CDM会員団体として、分野横断的な専門性を活かして、OCONOMI活動を運営し、関西圏を中心にカーボンオフセットの普及と温暖化対策の推進に貢献しています。

※本パンフレットは、1部当たり390g-CO2がカーボンオフセットされています。

(CER.No.) | D:IN-000-000-036-221-315

(制作) 大阪CDMネットワーク

(執筆) ㈱e-プランニング

(出典) ㈱日本スマートエナジー

2010年7月版

### 大阪CDMネットワーク事務局

538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番110号  
公益財団法人地球環境センター(GEC)内  
TEL:06-6915-4122 FAX:06-6915-0181  
e-mail:o-cdm@gec.jp



O-CDM



## カーボンオフセットの手引き



大阪CDMネットワーク  
大阪カーボンオフセット・コンシェルジュ(OCONOMI)  
<http://www.o-cdm.net>

# Carbon Offset?

## カーボンオフセットとは

環境省「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について（指針）」（2008年2月7日）によると、カーボンオフセットを次のように定義しています。

市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の構成員が、自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること、又は他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部又は一部を埋め合わせることをいう。

※環境省指針  
「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について」  
[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon\\_offset/guideline/guideline080207.pdf](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset/guideline/guideline080207.pdf)

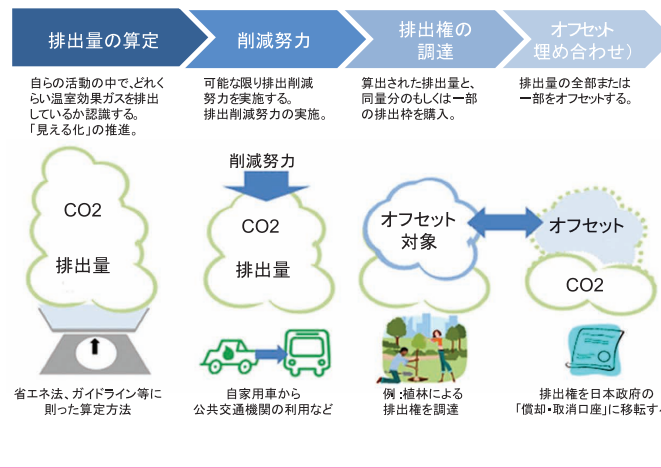
### Point!

- ①見える化
- ②削減努力
- ③排出権／環境活動  
\* 定量的であること。
- ④無効化／相殺

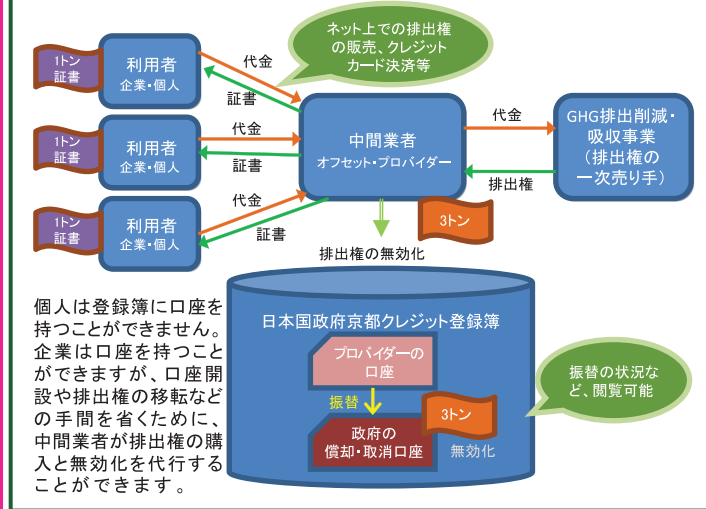
この一連の流れがカーボンオフセット！

\* 植林等による活動でオフセット（相殺）といわれることがありますが、自らの排出量を埋め合わせるためには、“定量的”でなければなりません。また埋め合わせる量は必ずしも100%である必要はありません。

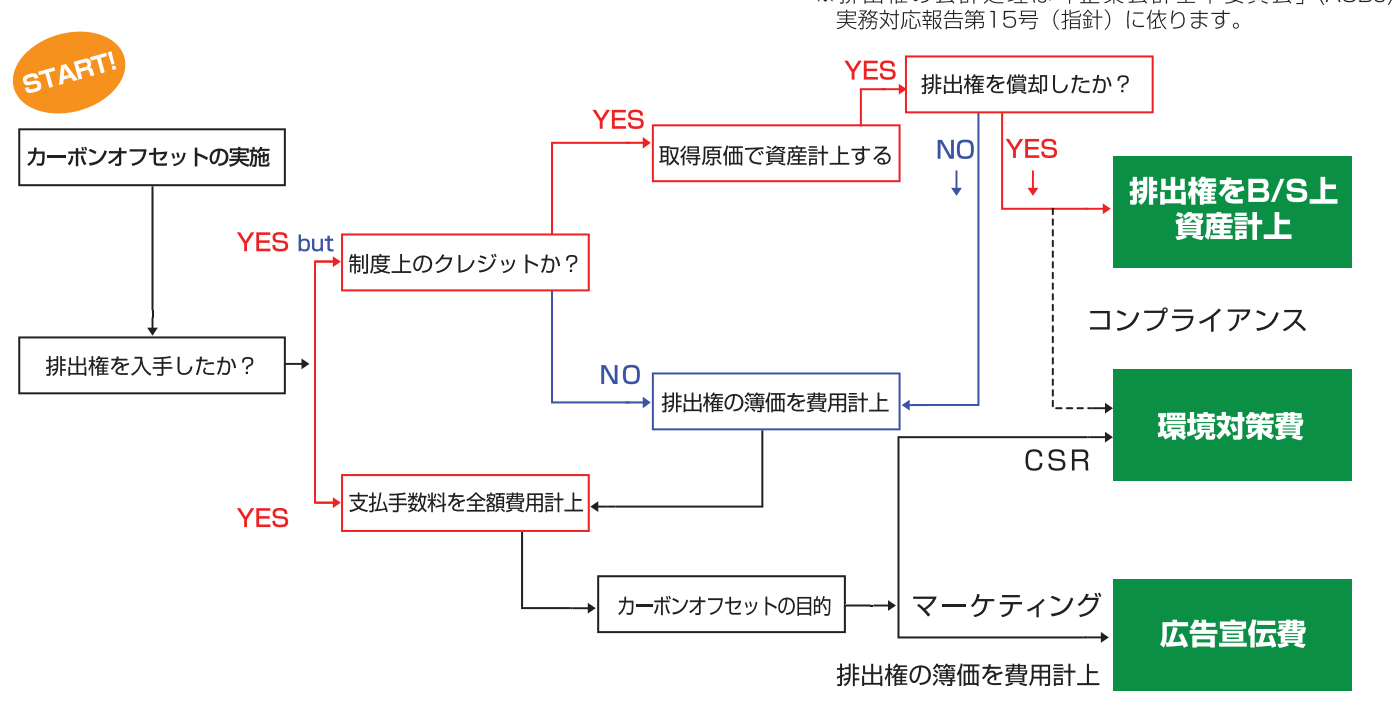
## カーボンオフセットのプロセス



## 排出権(クレジット)の無効化



## カーボンオフセットの会計処理



※排出権の会計処理は「企業会計基準委員会」(ASBJ) 実務対応報告第15号(指針)に依ります。